

○ 本校の概要

昭和8年開校、今年度開校88周年目を迎える。平成26年度から校舎改築に向け基本構想・基本計画を策定。平成28年度より新校舎建設工事(第1期)開始。平成31年度新校舎(第1期)竣工、新校舎へ移転。令和2年度より第2期工事開始、令和3年10月末竣工。

- ・平成24・25年度大田区教育委員会教育研究推進校に指定。「学び、かかわり、自己を高める子の育成」(生活科・総合的な学習の時間)を通じてを研究主題とし、地域を生かした学習活動を展開し、現在もスクールサポート大田と連携を図り、継続して推進している。
- ・平成26・27年度東京都教育委員会オリンピック・パラリンピック教育推進校に指定。「自己肯定感を高める指導の工夫」(すてなかかわり、自己のよさを発揮できる子の育成)を研究主題とし、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催と関連を図った学習内容の開発について研究を推進した。令和元年度からは研究主題を「学習問題をすすんで追及し解決しようとしたし、社会的な見方・考え方を育む指導の工夫」とし、生活科・社会科「問題解決学習」を通して思考力・判断力を高める指導を行い、合わせて基礎学力の向上に取り組んでいる。
- ・令和3・4年度大田区教育委員会研究推進校に指定。

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄						
						評価(人数)	コメント					
プラン１ 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が90％以上である。	○	・外国語はALTと協力して授業を行っている。日常生活で英語を使う場面が極めて少ないため、「外国の方々とのコミュニケーション」という点で取組内容が「できた」と回答しづらい部分がある。コロナ対策で密を避けるため、放課後の英語カフェの実施は当面見合わせている。 ・理科・総合的な学習の時間等、地域を生かしたもののづくりの体験活動はこれまでも行ってきた。区のプランに合わせて該当教材の内容と「ものづくり」の関連性をもとに指導計画を見直している。 ・タブレット等ICT機器は各学級で日常的に使用しているが、授業の進度や内容等必要に合わせて活用しているため、「全教員が週1回以上の使用」という結果にはならなかった。 ・長きにわたった改築がようやく竣工し、令和3年度の途中で体育の指導計画を修正し、校庭が狭小や使用できないときから継続してきたなわとびを中心とした「一校一取組」「一学級一実践」を行っている。 ・校内研究において「問題解決型学習」に取り組み、社会科を中心として授業改善を行い、思考・判断力を育成しているが、基礎基本となる知識の定着などの課題を踏まえて令和4年度の研究発表に向けて授業改善を行う。	A	5	・言葉は使わないと忘れてしまいます。慣れることが肝心で、また、コンピュータープログラムも同様です。 ・コロナ禍よくがんばっております。(各項目に「〃」と記載あり) ・放課後の英語カフェすてきですね。校舎の改修が終わり、広くなった校庭で伸び伸び遊ぶ姿を目にします。たてわり版が実施できるといいですが、学年が上がるにつれ、責任を持つことで成長していけます。 ・コロナ禍で大人数での活動がこんな状況にあっても運動会や学会など学校が工夫して実施されてきたことが分かります。その結果が保護者アンケートの高評価にあらわれたのだと思います。より高みを目指して改善していく学校の姿勢を伺うことができ、自己評価は適切であると考えます。				
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	3: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が85％以上である。						B	3		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	2: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が80％以上である。			C						
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	1: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が80％未満である。				D					
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。										
		問題解決的な学習方法により、思考・判断力を育成するための授業改善を進めている。										
プラン２ 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が95％以上である。	○	1学習カルテ・ステップ学習シートは区の学習状況調査の結果を基に夏休みの個人面談で個別に児童・保護者に提示し、課題と学習のめあてを知らせた。 ・学力の向上については継続的な課題であり、授業改善や個別指導を随時行っている。 ・「授業改善のポイント」を活用し、大田区学習効果測定を年度末に復習して学力の定着を図る。 ・補習については放課後・土曜日ともに計画通り実施している。 ・大田区漢字検定は区の規定に従い、2・3学期に実施している。 ・大四算数検定については東京ベーシックドリルの活用の一環として学力の定着を目指して実施している。 ・昨年度のコロナウィルスによる臨時休校中から生活が乱れ、学習習慣が崩れた児童の影響が大きく、その後の学校での授業への影響も大きいため、児童アンケートの評価が昨年度に続いて低下傾向にあり、学習習慣だけでなく、生活習慣の立て直しなど保護者への働きかけも行っているが、なかなか効果が出ないのが現状である。	A	4	・保護者の意識向上が欠かせない。 ・学習カルテ・ステップ学習シートは個別のレベルに合わせて学習できるよい取り組みだと思います。漢字と算数は学習の重点課題だと思います。しっかりやってほしいです。 ・補習や各種検定など、学校は充実したカリキュラムの中で指導されています。しかしながらコロナ感染症が長期化し、子供たちの学習意欲や習熟に結びつきづらい環境にあります。学校評価は「2」となっていますが、学校側の生徒に対する働きかけや努力は十分評価できるものと考えます。				
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が90％以上である。						B	3		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85％以上である。			C	1					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85％未満である。								D	
		大田区漢字検定・大四算数検定等を目標とした、基礎的な学力の向上を目指す指導を行う。										
プラン３ 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を大きくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が90％以上である。	○	※1 たてわり班活動やクラブ・委員会等の異学年交流となる活動は、新型コロナウイルス感染防止のため11月から密を避ける形で再開したが、再び感染が拡大したため、1月から再び中止しとなったため、従来の指標ではこのようは結果となった。 ・社会のルールや学校のきまりについては、問題行動を未然に防いだり、トラブルの対応をしったりして学校では繰り返し指導を行っているが、特にスマートフォンの対応をしたりして学校では繰り返し指導を行っているが、特にスマートフォンやSNS等の使い方も含めて最終的には家庭の問題へ帰結してしまうため、継続して周知に努めている。 ・道徳の研修については道徳教育推進講師からの伝達研修は例年通り行っている。 ・学校生活調査やいじめ調査などで得られた結果にはすみやかに対応している。特にコロナウィルスについては児童のみならず保護者のメンタルにも大きな影響があり、問題行動や不登校にもつながるため、就学援助等の行政支援についても積極的に周知し、関係機関とも連携して対応を進めている。	A	3	・感染防止のための制約が多い中、工夫して進めている。 ・たてわり版はいい取り組みだと思います。きまりを守る指導はこれから中学校へ進学する前にきちんと身につけてほしいです。小学生も多くの子がスマートフォンを持つ時代にあっては正しい使い方を身につけることが必要です。 ・※1についてはコロナ感染を拡大させないためにも致し方ないご判断であると考えます。保護者アンケートの結果から高い評価が得られており、自己評価は適切であると考えます。				
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: 学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が85％以上である。						B	5		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: 学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80％以上である。			C						
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: 学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80％未満である。				D					
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。										
		1～6年生の異学年集団による縦割班活動を通して、思いやりや協調性など豊かな心を育てる。										

ブ ラン 4	ス ポ ー ツ に 親 し む 心 の 育 成 や 、 運 動 習 慣 の 定 着 に よ る 体 力 の 向 上 な ど 、 生 涯 に わ た っ て 健 康 増 進 を 図 る 意 識 の 向 上 を め ざ し ま す 。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を上回っている。	○	3	・学校評価児童アンケートの「自分から進んで運動をして、健康的な生活をしている」は昨年度より約5%下回ったが、約90%の児童が肯定的な評価をした。校庭が使えなかったり狭小な期間が長く、さらにコロナウイルス対策で制約がかかる状況を見ると意識して運動していることが伺い知れる状況であった。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」は特に昨年度の学校再開以後、崩れた生活習慣を取り戻すために期間以外においても継続して学校だよりや学年だより、ほけんだより、給食だよりなどで食育と合わせて啓発を行った。 ・コロナウイルス感染防止で密になることを避けるため、校庭や体育館の使用を学年・学級に計画的に割り当て、体を動かす機会を可能な限り設定している。 ・今年度は「体育・健康教育授業地区公開講座」の実施は本校卒業生のアスリートを招聘し、全校への講演と6年生への実技で行った。コロナウィルス対応のため、本校では学校規模から地域・保護者を交えた多人数での集会が困難なので、児童のみを対象として行った。	A	5	・今後は広くなった校庭を十分に活用してほしい。 ・コロナ禍で大人数での体育や集会・運動会が難しいところ、体力作りの機会設定に加え、食習慣や生活習慣の啓発にも取り組まれています。校庭が使用できない中にあっても生徒の体力を都の平均と同様にもってこられたのは学校の取り組み努力の結果と思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	3:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均とほぼ同様である。				B	2	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を下回っている。				C	1	
		校舎改築の影響を最小限にとどめるよう運動量の確保に努め、体力向上に関する授業を実施する。体育・健康教育授業地区公開講座や保護者会、学級により等で体力づくりの重要性やその方法を地域・保護者に向けて啓発を行う。	1:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を大きく下回っている。				D		
ブ ラン 5	児 童 ・ 生 徒 が 安 全 ・ 安 心 に 学 校 生 活 を 送 る た め に 、 教 員 の 指 導 力 向 上 と 良 質 な 教 育 環 境 を つ く り ま す 。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	○	4 94.0%	・新型コロナウイルス対応のため、今年度は報告書作成時点で学校公開は1回のみ実施となっている。アンケート結果は概ね好評であった。 ・OJTや研修はテーマを設けて主幹・主任教諭が講師を務めて校内研修を行っている。また、各種研究発表会が紙上発表となっているため、文書の回覧等で研究成果を共有するようにしている。 ・特別支援教育は対象児童が年々増加しているため、定期的な校内委員会や臨時のケース会議を実施し、サポートルームやカウンセラー、必要に応じて関係機関と連携して対応を行っている。	A	5	・コロナ禍において、子供の安全・安心に心配を行っていると思います。 ・アンケートの結果から教職員に対する保護者満足度の高さが伺えます。各種研修の成果を授業に生かされるなど、先生方が意識高く努力されており、自己評価は適切であると考えます。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。				B	3	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。				C		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。				D		
		OJT計画を基に、研修の機会を多く設定し、教職員が互いに高め合うようにする。							
ブ ラン 6	学 校 ・ 家 庭 ・ 地 域 が 担 う 役 割 な ど を 明 確 に し 、 地 域 に 開 か れ た 教 育 の 実 現 を 目 指 し ま す 。 ま た 、 相 互 の 連 携 を 深 め 、 子 ど も を 育 て る 仕 組 み を 作 り ま す 。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	○	4 95.8%	・地域教育連絡協議会は今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、対面による会議は1回のみで、他は紙面による連絡を行っている。 ・ホームページは児童の日常活動の様子はその都度を更新を行っているが、緊急性のある連絡はメールやタブレットのクラスルームやまなびポケットに移行しており、タイムラグと相まって更新の頻度や情報の新しさが劣る。 ・スクールサーポート大四と連携し、地域学習などに協力をお願いしているが、コロナウィルス感染防止のため、直接の工場見学などこれまでと同様な形でできなくなっているものもある。その都度代替案を考えて可能なものは実施するようにしている。 ・読み聞かせは一旦再開したが、コロナウィルスの感染状況によって再び見合わせている。 ・昨年度以来、家庭学習の生活習慣の立て直しと合わせて、学年だよりで周知したり、直接保護者と連絡をしたりしている。	A	4	・学校に行く機会が減ったのは残念です。 ・コロナのため地域とのつながりができず残念です。 ・タブレット等ICT聞きの使用も大切な勉強の一つでしょう。がしかし、頭の中の知識だけでなく「体験はこの時」というタイミングも欠かせないことと思います。代替案の考案も大変な労力と思います。先生方に感謝です。学校行事の中で見てきた児童、折に触れた先生方との対話ができなくなってから学校をフィルターを通して見ている気分です。地域の中での学校、そこで育つ子供たちの姿、早く戻れることを祈るばかりです。 ・コロナ禍にありながら、地域教育連絡協議会のみならず、地域の防災訓練にもご協力いただくなど、地域に開かれた学校であることを実感しております。いつもありがとうございます。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が85%以上である。				B	4	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%以上である。				C		
		地域や保護者による読み聞かせ等を実施し、家庭の教育参画意欲を高める。	1:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%未満である。				D		
		毎日家庭で(学年×10分)の学習を推奨し、取り組む。							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。